

イカナゴ情報（2007年5月）

平成 19 年 5 月 25 日、稚内水産試験場資源管理部、Tel 0162-32-7166

宗谷海峡東方海域のイカナゴの資源水準（図1）と2007年5月14～17日試験調査船北洋丸で実施したイカナゴ漁場における海洋観測結果（図2～6）について報告します。

- ・ 昨年のトロール漁業の CPUE から判断される資源状況は、2004 漁期から増加に転じ、過去 20 年間の平均値の $\pm 40\%$ 内に届き、中水準にもどったと判断されました。
- ・ 宗谷岬沖からオホーツク海沿岸部の水深 70 m 付近までは 5～7 で、比較的高温であった昨年 5 月と比べて 1 低くなっていました。イカナゴ漁場のポケット海域（769 海区）の底層水温は 5 でした。
- ・ より深い沖合海域では、例年同様水深 100 m 等深線に沿って、0～マイナス水温の中冷水が海底近くまで広がっていましたが、イカナゴ漁場 769 海区の東側沖合の冷水の張り出しは 770 海区まで届いていませんでした。
- ・ 昨年、一昨年の好漁を支えた 2004 年生まれのイカナゴは想像以上に資源豊度が高く、今漁期前半はある程度期待できそうですが、漁期後半は後続の年級がでるかどうにかかっています。

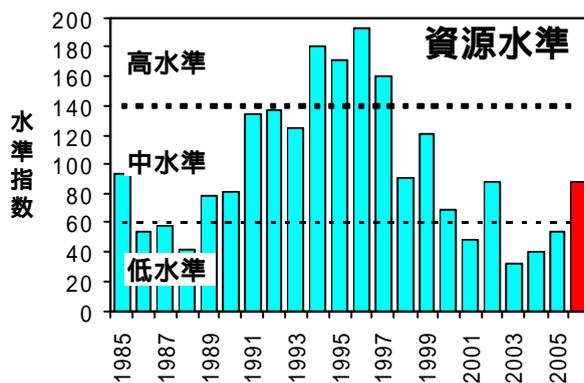


図1 宗谷海峡東方海域のイカナゴの資源水準（トロール漁業の CPUE について 1985～2004 年の平均値を 100 とした場合 100 ± 40 の範囲を中水準とする）

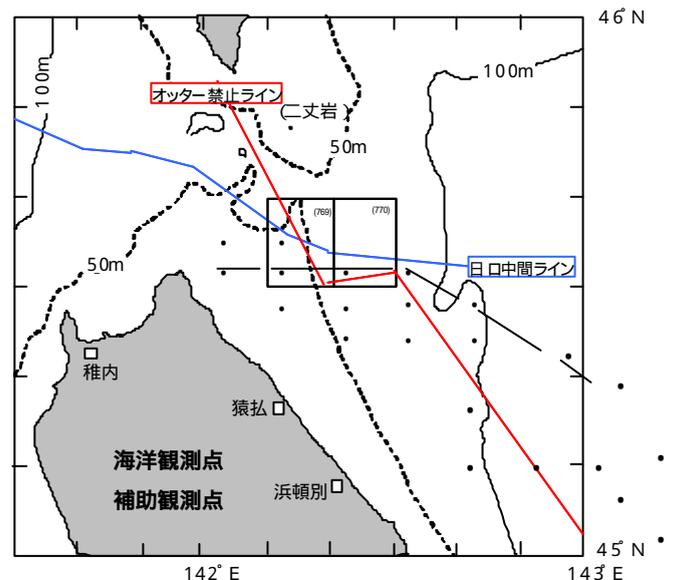


図2 2007年5月14～17日、北洋丸によるイカナゴ漁場海洋観測調査点図（実線は図6の水温鉛直分布図のライン）

図3 10m層水温

ポケット海域（769 海区）
 の水温は6 台、7海区には
 沖からの3 台の冷水の
 張り出しがみられました。

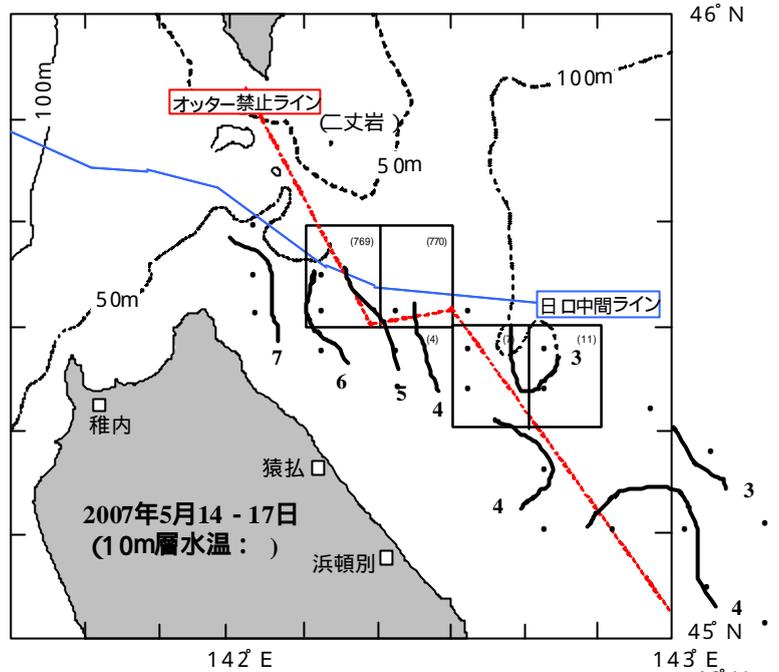


図4 30m層水温

ポケット海域（769 海区）
 の水温は6 台、水深 100m
 等深線より沿岸側までマイナス
 水温が存在していました。

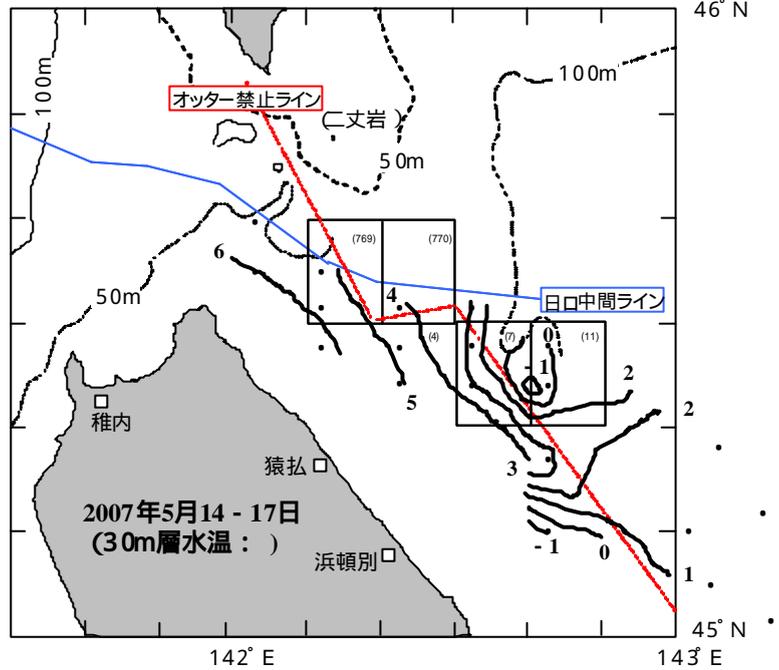
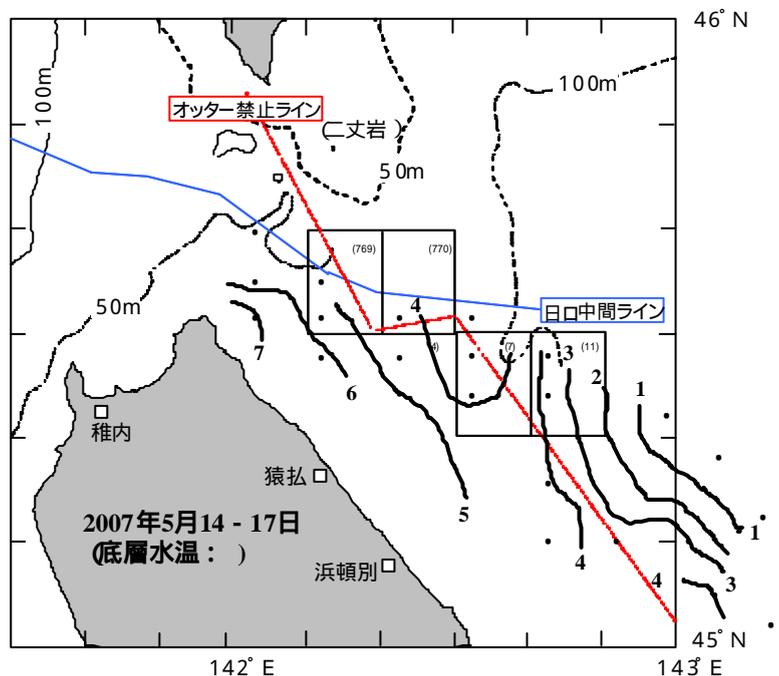


図5 底層水温

ポケット海域（769 海区）の
 水温は5 台（例年5～6）
 で、昨年同時期の調査と比
 べて1 程度低くなっていま
 した。



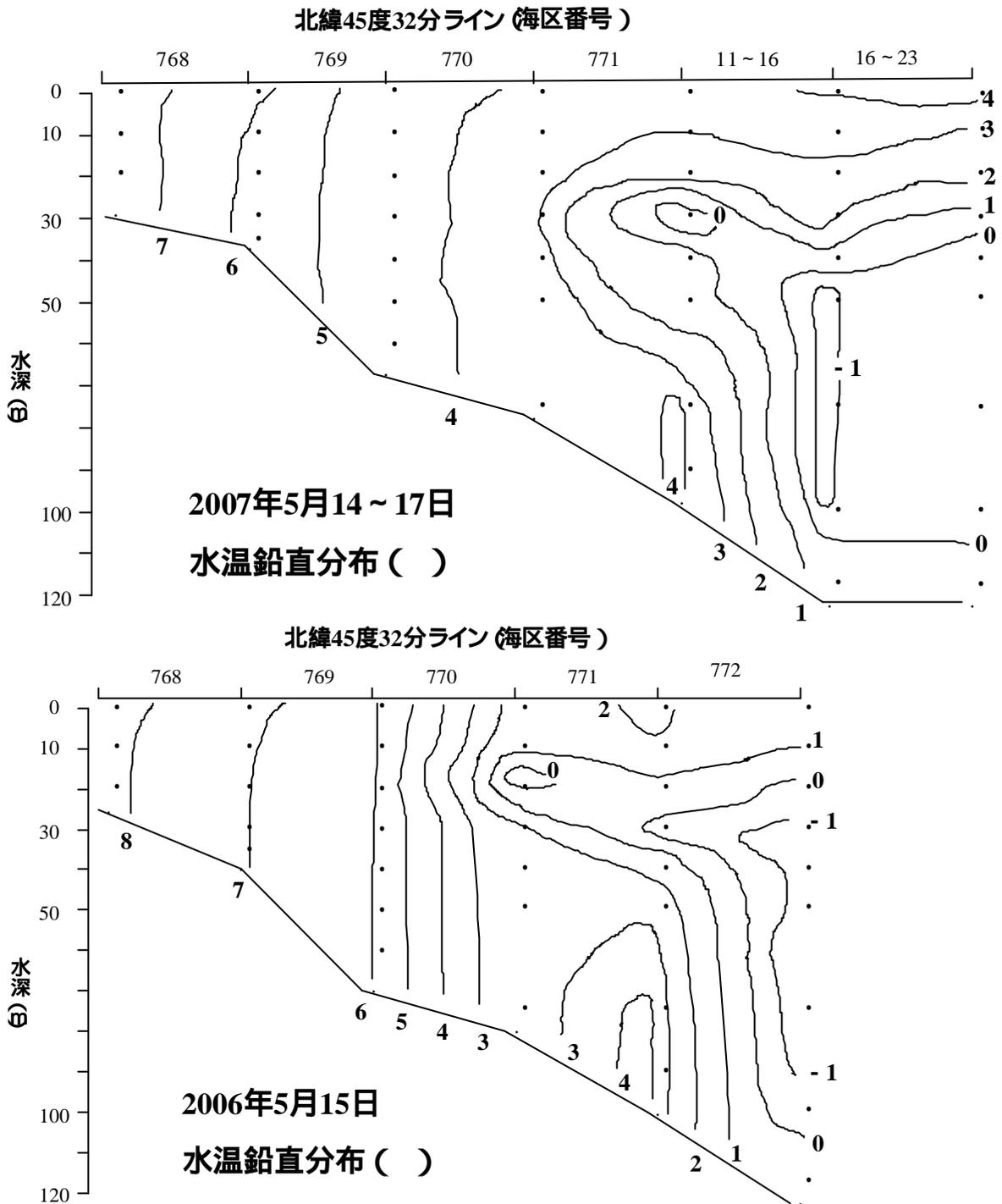


図6 イカナゴ漁場 (769 海区) を含む、北緯 45 度 32 分ラインの水温鉛直分布 (上: 2007 年 5 月 14~15 日、下: 2006 年 5 月 15 日)

昨年と比べてイカナゴ漁場の水温は 1 程度低い状況でした。沖合からの冷水の入り込みは、イカナゴ漁場では昨年より沖側に位置していますが、より南の浜頓別沖 (図 4 参照) で沿岸への局所的な冷水の差し込みがみられたのが特徴でした。

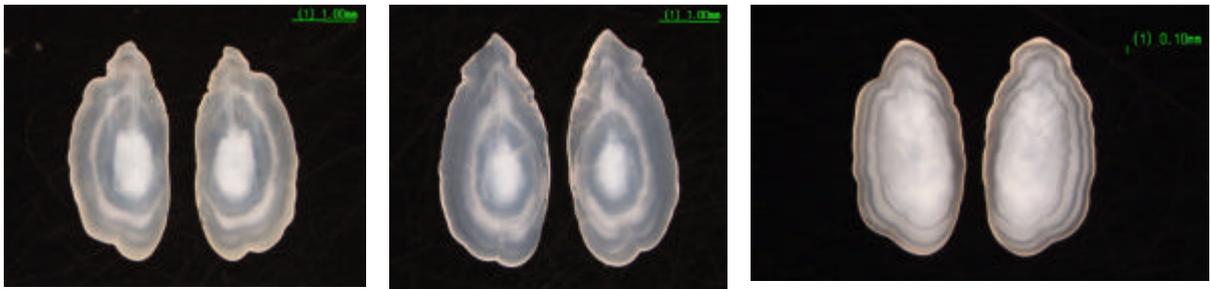
イカナゴ情報（疑問・質問コーナー）

漁業関係者の疑問・質問にお答えするコーナーです。昨漁期（2006年9月）サンプリング時の聞き取り調査にて、「黄金色のイカナゴは別種だと思うので調べて。」と要望があり、確かに色の違うやや大きめのイカナゴが混じていましたので、キタイカナゴとイカナゴの違いを区別できる耳石や脊椎骨数を調べました。その結果をお知らせします。

Q：「黄金色のイカナゴは別種のイカナゴか？」



2006年9月11日に第28大忠丸さんからサンプリングしたイカナゴの中に、普通の色のイカナゴ（上：体長217mm）に混じり、やや大型の黄金色のイカナゴ（下：体長241mm）が混じていました。明らかに魚体が輝いていました。



耳石を調べたところ、普通色のイカナゴ（左）と黄金色のイカナゴ（中）ともイカナゴタイプの耳石であり、キタイカナゴ（右）に典型的なヤジリタイプで輪紋が複雑なタイプではありませんでした。脊椎骨数も普通色64個、黄金色63個で、66～69と比較的多いキタイカナゴタイプではありませんでした。

最近、北日本にはイカナゴにも2タイプが存在することが遺伝的に明らかにされています。今回は、黄金色のイカナゴもイカナゴタイプの魚であるという以上の結果はでませんが、ひょっとすると、違うイカナゴなのかもしれません。

宗谷海峡のイカナゴ類は3種類のイカナゴが混じていることになり、いよいよ謎は深まるばかりで、担当者としては、困惑しているところです。（イカナゴ担当 H.Y.）